

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 亀山市社会福祉協議会

～目 次～

◆ 重点項目の実績	・ ・ ・ ・ ・	P1
◆ 法人運営事業【総務係】	・ ・ ・ ・ ・	P6
◆ 地域福祉事業【地域福祉係】	・ ・ ・ ・ ・	P13
◆ 生活支援事業【生活支援係】	・ ・ ・ ・ ・	P27
◆ 地域包括支援センター事業【地域包括ケア推進係】	・ ・ ・ ・ ・	P34
◆ 福祉サービス事業【福祉サービス事業係】	・ ・ ・ ・ ・	P42
◆ その他	・ ・ ・ ・ ・	P49
◆ 事務機構図	・ ・ ・ ・ ・	P50

令和3年度 事業報告書

令和3年度の亀山市社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として、地域共生社会の実現に向け、誰もが安心して明るく元気に暮らすことのできる福祉のまちづくりの推進を目指し、地域福祉活動計画及び年度当初策定しました事業計画に基づき以下の事業を実施いたしました。

<重点項目の実績>

1 組織基盤の強化

〔実績評価及び今後の課題〕

法人の使命・経営理念・組織運営方針の実現に向け、事業を展開できる職員を育成するため、人材育成計画・職員研修計画に基づき、職員への階層別研修や個別面談シートを用いて各係で定期的な面談を実施し、職員の明確な行動目標やキャリア形成を行えるような体制整備に取り組みました。さらに、本会の組織・経営の基盤を強化するため、介護労働安定センターの相談事業を活用し中期経営計画の策定に向け、策定委員会及び正規職員が全員参画したプロジェクトチームを立ち上げ、職員が一丸となって法人の組織体制の強化に努めました。チーム会議では職員から係を超えての相談援助について情報交換できる場づくりや、専門職としての育成及びスキルアップの必要性など積極的な意見が多く聞かれました。よって令和4年度に策定する中期経営計画に反映し、着実に取り組んでいきます。

財政面においては、令和3年度の収支状況はマイナス収支差額となりました。生活介護事業の利用者減による収入減が主な要因となっていることから、引き続き三役会等で福祉サービス事業についての経営状況の分析を行い、今後も安定した事業経営を行っていくために現状の課題を分析し、改善に向けての検討を行っていきます。

2 第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画（後期）の一体的策定

〔実績評価及び今後の課題〕

前期計画では「ともに支え合い ともに暮らせる ふくしのまち」をコンセプトに、基本目標や施策の方向など市と共通とし、進行管理を共同で行い進めてきました。後期計画では、これまでの「コミュニティソーシャルワークの充実」及び「福祉総合相談機能の充実」を次なる段階へと引き上げ、地域福祉力の更なる向上を目指す重層的支援体制の整備に取り組むため、地区懇談会や福祉団体へのヒアリングを行いながら市と更なる連携強化を図れるよう一体的に「第2次地域福祉計画（後期）」を策定しました。地域まちづくり協議会をはじめ、福祉活動団体、権利擁護関係団体、ひきこもり関係団体と幅広い分野において、それぞれの現状や課題のヒアリングを行い、地域福祉推進委員会で協議・検討し、計画に反映することができました。

今後は本計画に基づき、進捗状況の確認を行いながら地域福祉活動を推進していきます。

3 地域福祉力強化推進事業の充実強化

〔実績評価及び今後の課題〕

4名（専任2名・兼任2名）のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が、亀山市が配置する相談支援包括化推進員とともに複合的な課題を抱える世帯等に対し、分野を超えた多機関による支援が行えるよう包括的支援体制の充実を図りました。

令和3年度は市の窓口業務がある部署を中心に、CSWにつなぐ「つながるシート」を活用し、福祉課題を相談支援につなぐことができるよう全庁展開（15課）を図りました。

相談件数は、新規相談件数39件（前年比△37件）、延べ相談件数1,440件（前年比△58件）となり、潜在していたニーズの顕在化や、伴走的・継続的な支援が必要なため、延べ相談件数が依然として多い状況となっています。対象者別にみると、障がい者及び障がいを起因としている（制度のはざま）支援が最も多く、自らに障がいの受容がなく病院に受診していない世帯や、公的な手続きができていない世帯などが顕著化しています。それらはすぐに解決できる福祉課題ではなく、長期的に伴走的な支援が求められることから、専門職の人材確保及び人材育成も今後の課題となります。

令和4年度より地域福祉力向上重層的支援体制整備事業に移行するため、現在の体制を基盤としながら、「包括的相談支援事業」「参加支援事業」「地域づくり事業」「アウトリーチ事業」「多機関協働事業」の各事業について、各機関と情報共有・連携しながら個別支援、地域支援、しくみづくりを行っていきます。

4 地域包括ケアシステムの実現に向けた機能強化

〔実績評価及び今後の課題〕

令和3年度に行われた地域包括支援センターの圏域再編に伴い、地域型地域包括支援センター2か所と基幹型地域包括支援センターが設置され、本会は基幹型地域包括支援センターを受託しました。

基幹型地域包括支援センターの役割として、従来の地域包括支援センター機能に加えて、地域型地域包括支援センターの後方支援及び補完的機能・地域ケア圏域会議の開催支援等を主に行いました。

市民からの相談件数は、地域型地域包括支援センターが増えたことにより減少していますが、後方支援を行う各包括支援センターからの様々な相談支援依頼が多く寄せられています。そのため、地域型地域包括支援センターとの連携をスムーズにするための仕組みづくりに主力を注いでまいりました。さらに地域包括支援センターが増えたことの効果として、地域型・基幹型併せて3か所となったことで、センター同士の協力し合える関係性が構築され、職員の安心と意欲の向上につながっています。

また、生活支援コーディネーターが中心となり、地域における生活支援・介護予防サービス提供体制の構築に向けた、市内のまちづくり協議会の協議に参加し助言を行ったり、社会資源やインフォーマルな活動の見える化を図るために「地域福祉カルテ」の更新と「高齢者のための社会資源のしおり」を関係機関の協力を得て作成することができました。

認知症の人やその家族の支援に対し、認知症地域支援推進員が中心となり、認知症サポーター養成講座を精力的に実施し、認知症に関する正しい知識の普及啓発に務めました。また、認知症の早期発見と治療の重要性について、認知症初期集中支援チーム（名称：カナリアチーム）とと

もに周知し支援体制の強化に務めました。

5 ボランティア活動の推進及び災害ボランティアセンターの機能強化

〔実績評価及び今後の課題〕

ボランティア活動を支援するため、ボランティアセンターとして団体及び個人登録者に対し、団体助成、ボランティア活動保険の助成等を行うとともに、ニーズに応じたボランティアコーディネートを行いました。ボランティアセンター登録者数は活動者の高齢化に伴い減少傾向ですが、ボランティアコーディネート数は前年度とほぼ同数でした。今後もニーズに応じたボランティアの養成を行いながら、生活支援コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカーと連携し、ちょこボラ等地域の担い手の養成に取り組むとともに、ボランティアや市民活動による支援を必要としている人と活動団体をつなげるコーディネート機能の強化を図りながら、引き続きボランティアセンター登録団体の周知・PRを積極的に行っていきます。

また、災害ボランティアセンターとして、自然災害発生時における物的および人的支援の協力体制を構築するため、亀山ライオンズクラブと「自然災害発生時における災害ボランティアセンター支援に関する協定書」を締結しました。また設置時に対応できるよう昨年度に引き続き粉塵マスクや一輪車等の資機材を整備するとともに、広域的な災害に備え三河鈴亀ブロック社協災害時広域連携協議会を設置し、平時より顔の見える関係性を構築し、連携強化に努めています。

しかし災害ボランティアセンター設置訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から昨年度に引き続き中止となりました。今後は新型コロナウイルスの状況下における衛生に配慮した運営について検討も行っていきます。

6 サロン活動の推進

〔実績評価及び今後の課題〕

高齢者対象のふれあい・いきいきサロンは、新規で6か所立ち上がり計91か所（前年比△3）、子育て中の親子対象の子育てサロンは計5か所（前年比±0）、地域住民誰もが参加できるコミュニティサロンは、新規で1か所立ち上がり計14か所（前年比+1）となりました。昨年度と比較して2か所減の合計110か所でサロン活動が行われました。各サロンに助成を行うとともに、担当者が訪問し、地域の状況や福祉課題の把握に努め、活動の情報発信を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動を休止をお願いすることもありましたが、多くのサロン団体がそれぞれで工夫しながら居場所づくりに取り組んでいただきました。

さらにふれあい・いきいきサロンの情報を多職種連携情報共有システム（バイタルリンク）において共有をおこなったり、生活支援コーディネーターが作成した社会資源のしおりに活動団体を掲載することでサロンを利用したいニーズと団体のコーディネートにつなげました。

課題としてサロン活動が無い地域も見受けられるため、引き続きすべての地域へ集いの場を創出できるよう働きかけを行っていきます。

7 福祉教育推進事業の充実

〔実績評価及び今後の課題〕

市内の学校（園）に様々な福祉体験学習やボランティア活動、地域のサロンとの交流を通して、福祉に関する関心を高めることを目的に福祉教育推進事業を実施しました。令和3年度より2年間、昼生保育園、関小学校、亀山高等学校の3校（園）をモデル校に指定し、社協と協働で年間のプログラムを作成し、福祉教育の更なる充実と次世代の担い手の育成に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から市内福祉施設等の協力のもと毎年実施している中学生福祉体験教室をはじめ、生徒による街頭募金活動などは中止となりましたが、モデル校をはじめ他の学校から依頼も増えています。少人数授業や体育館での開催などコロナ禍に配慮した上で、車いす体験や点字ブロック、ユニバーサルデザインについてなどの福祉教育授業を行い、高齢者や障がいのある方に対する理解に取り組みました。今後も、学校（園）と連携しながら積極的な福祉教育の推進に取り組んでいきます。

8 成年後見制度の活用促進

〔実績評価及び今後の課題〕

判断能力の不十分な高齢者、障がい者の方やご家族、支援者からの相談を受け、支援を行いました。また、地域型地域包括支援センターや障害者総合相談支援センター等から繋がった個別ケースの相談に応じたり、それぞれの機関だけでは解決できない場合には、一緒に相談者の元を訪問する等、関係機関からの相談にも応じました。

令和3年度は中核機関の受託及び法人後見の実施に向け、先進地視察や研修会への参加等準備を重ねてきました。弁護士会、司法書士会、社会福祉士会等12団体へヒアリングを行い関係団体の現状や課題等を詳しく聞き取る事ができました。令和4年度中の実施に向け、引き続き市と協議しながら計画的に進めていきます。

9 福祉サービス事業の充実

〔実績評価及び今後の課題〕

昨年度に引き続き、生活介護事業（つくしの家・なかまの部屋）では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の小学校や民生委員・児童委員との交流や外出行事を縮小・簡素化して実施しました。そのため事業所内での活動が中心となりましたが、生産活動や機能訓練、余暇活動の充実を図るとともに、つくしの家となかまの部屋との合同作業や合同行事の回数を昨年度より増やし利用者・職員間の交流を深めることができました。また、新たに作業療法器具を導入し、一人ひとりに合った機能訓練に取り組み、余暇活動については昨年度と同様に、スヌーズレンやポッチャ、リハビリ体操など体を動かしながら楽しく過ごせるように工夫して取り組みました。

訪問介護・居宅介護事業については、障がい者の利用者が施設入所や介護保険に移行するなど減少しましたが、高齢者の新規利用者を積極的に受けた結果、介護保険事業は昨年度より収入が増えました。課題として訪問介護員の人材確保及び人材育成や、事務の効率化に向けてのシステム構築など事業所の体制整備が求められます。

今後も引き続き地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、計画相談支援事業所と連携を図り質の高いサービスを提供していきます。

収支状況としては、つくしの家においては利用者数が増加したため昨年度より年間収入は増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で休止した期間があったため、当初の見込みよりは減少しマイナス収支差額となりました。特になかまの部屋は利用者が2名減少したため、昨年度より年間収入が減少し、大幅なマイナス収支差額となりました。

訪問介護・居宅介護事業は、昨年度に引き続きプラス収支差額となりました。特定・障害児相談支援事業においても、当初の年間収入見込みを上回りプラス収支差額となりました。なかまの部屋の利用状況をみると利用者が年々減少している一方で、新たな利用者が見込めないため、今後も安定した収支が見込まれるとは言えない状況にあります。引き続き今後の事業運営について協議・検討を行ってまいります。

10 亀山市社会福祉法人連絡会への参画及び支援

〔実績評価及び今後の課題〕

亀山市内に事業所を持つ社会福祉法人（14法人）が相互に連携及び情報共有、地域における公益的な取り組みを推進するため、亀山市社会福祉法人連絡会への参画及び事務局業務等の支援を行いました。定期的に会議を行い、各法人が所有している施設・備品等を地域の方々に使用してもらえよう貸出備品のパンフレットの作成や、各法人が事業継続計画（BCP）の作成に取り組めるよう意見交換を行いました。引き続き、本会のホームページやSNSを通じて情報発信を行うとともに、連絡会の事業が円滑に行えるよう、他の法人と連携し地域における公益的な取組を推進してまいります。

1 法人運営事業【総務係】

1 会務の運営

①理事会（6回）

第1回 令和3年5月7日（木）【書面決議】

議 題

議案第1号 令和3年度共同募金配分金の助成について

議案第2号 第1回評議員会の招集について

第2回 令和3年6月3日（木）【書面決議】

議 題

議案第1号 評議員選任候補者の選考及び推薦並びに評議員選任・解任委員会の招集について

議案第2号 令和3年度 資金収支（一次）補正予算について

議案第3号 令和2年度 事業報告及び決算について

議案第4号 第2回評議員会の招集について

報告第1号 会長及び常務理事の職務の執行状況の報告について

第3回 令和3年6月24日（木）【書面決議】

議 題

議案第1号 会長、副会長及び常務理事の選任について

第4回 令和3年12月15日（水）【出席者】理事11名、監事2名

議 題

議案第1号 令和3年度 資金収支（二次）補正予算について

議案第2号 第3回評議員会の招集について

報告第1号 会長及び常務理事の職務の執行状況の報告について

第5回 令和4年2月22日（火）【書面決議】

議 題

議案第1号 令和3年度 資金収支（三次）補正予算について

議案第2号 令和4年度 事業計画及び資金収支予算について

議案第3号 役員等賠償責任保険契約について

議案第4号 第4回評議員会の招集について

第6回 令和4年3月22日（火）【書面決議】

議 題

議案第1号 第三者委員の選任について

②評議員会（4回）

第1回 令和3年5月13日（木）【書面決議】

議 題

議案第1号 理事の選任について

第2回 令和3年6月24日（木）【書面決議】

議 題

議案第1号 理事及び監事の選任について

議案第2号 令和3年度 資金収支（一次）補正予算について

議案第3号 令和2年度 事業報告及び決算について

第3回 令和3年12月22日（水）【出席者】評議員15名

議 題

議案第1号 令和3年度 資金収支（二次）補正予算について

報告事項 令和3年度 中間事業報告（令和3年4月～9月）について

第4回 令和4年3月10日（木）【書面決議】

議 題

議案第1号 令和3年度 資金収支（三次）補正予算について

議案第2号 令和4年度 事業計画及び資金収支予算について

③評議員選任・解任委員会（1回）

第1回 令和3年6月11日（金）【出席者】選任・解任委員5名

議 題 評議員の選任について

④監事監査（2回）

第1回 令和3年5月25日（火）【出席者】監事2名

議 題 令和2年度 事業報告及び収支決算の監査について

第2回 令和3年10月27日（水）【出席者】監事2名

議 題 令和3年度中間監査について（令和3年4月～9月）

⑤三役会（会長・副会長・常務理事）

第1回 令和3年4月27日（火）

議 題 （1）理事会（書面決議）提出議案について

（2）令和3年度福祉ボランティア基金助成について

（3）各系の目標について

第2回 令和3年5月27日（木）

議 題 （1）理事会及び評議員会提出議案について

第3回 令和3年8月4日(水)

- 議 題 (1) 今年度の事業経過及び今後の事業推進について
(2) 令和3年度福祉サービス事業利用状況について(令和3年4月～6月)

第4回 令和3年9月29日(水)

- 議 題 (1) 第2次亀山市地域福祉計画(後期)の策定状況について
(2) 中期経営計画の策定について
(3) 令和4年度 正規職員採用について
(4) 災害時の対応について

第5回 令和3年10月28日(木)

- 議 題 (1) 令和3年度事業報告について(令和3年4月～9月)

第6回 令和3年11月29日(月)

- 議 題 (1) 理事会及び評議員会提出議案について
(2) 第2次亀山市地域福祉計画(後期)中間案について
(3) 中期経営計画の進捗状況について

第7回 令和3年12月22日(木)

- 議 題 (1) 令和4年度予算概要について
(2) 障害福祉サービス事業の今後の運営について

第8回 令和4年2月10日(木)

- 議 題 (1) 理事会及び評議員会提出議案について
(2) つくしの家の事業運営について

⑥行政監査

市監査委員による監査

財政援助団体等監査(令和2年度分) 令和3年11月18日(火)

⑦第三者委員報告会

利用者等からの苦情に対して社会性や客観性を確保するとともに、利用者等の立場や特性に配慮した適切な対応を推進するため、第三者委員を設置しています。3年度については報告案件がありませんでした。

⑧各種団体等への事業説明・意見交換会

(1) 亀山市議会教育民生委員会との意見交換会

当会の事業概要や意見交換の場として、市議会教育民生委員会と意見交換会を行いました。

実施日 令和3年10月14日(木)

場 所 市役所 第1委員会室

内 容 社会福祉協議会との意見交換会

出席者 会長他職員4名

2 基盤の強化

① 会員制度の啓発及び推進

(単位：名、円)

実施期間	普通会員	特別会員	3年度	2年度	増減額
7月	10,648	4	3,448,110	3,484,605	△36,495

② 中期経営計画の策定に向けた取り組み

法人の使命・経営理念の実現に向け、地域福祉を推進する組織として、本会が将来にわたって安定的に事業を継続するために中期経営計画の策定に取り組みました。

◆策定委員会の開催 3回

◆プロジェクトチーム会議の開催

法人運営部門：7回 地域福祉活動推進部門：5回 在宅福祉サービス部門：6回

◆職員研修の実施

実施日：令和3年7月15日(木)

場 所：社会福祉センター

内 容：人材育成計画・令和3年度職員研修計画及び中長期計画(仮)の策定に向けて

講 師：(公財)介護労働安定センター三重支所 介護人材育成コンサルタント

G-UP Coaching 代表 葛巻 直樹 氏

参加者：15名

③ 人材育成計画・研修計画の推進

昨年度に策定した人材育成計画・研修計画に基づき、各係の目標を設定し、職員面談等を行いながら、各職員が係の目標に到達できるよう取り組むべき行動目標を明確にしました。また、職員別育成計画書を作成し、各職員の年度の育成を明確にするとともに、計画的な研修の実施や研修の履歴管理など研修体系の整備を行いました。

3 社会福祉大会事業 <市補助事業>

① 第17回亀山市社会福祉大会

市と共催で、亀山市における社会福祉関係者が一堂に会し、今後の更なる努力を誓い、併せて亀山市の社会福祉の発展に功績のあった方々を表彰し、感謝を表するため開催いたしました。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため縮小開催

実施日 令和3年11月24日(水)

場 所 亀山市中央コミュニティセンター

内 容 表彰状・感謝状授与

参加者 約50名

4 福祉移送サービス事業 <市委託事業>

「住みよい福祉のまちづくり」を推進することを目的として、歩行困難の方や寝たきり状態の方を対象に、福祉移送サービスを実施いたしました。

(単位：名、回)

	3年度	2年度	増減
登録者数	47	51	△4
延べ運行回数	2,132	1,306	826

<3年度内訳>

(単位：円、回)

月	運行費 (年会費含む)	内 容			運行 回数
		リハビリ・診察	透析	その他	
4	57,600	55	74	1	130
5	53,400	47	98	3	148
6	44,000	53	105	14	172
7	47,800	44	96	15	155
8	59,200	56	113	10	179
9	43,400	51	110	3	164
10	52,800	48	129	4	181
11	60,600	37	119	3	159
12	57,200	56	143	3	202
1	50,600	54	144	1	199
2	50,400	59	133	11	203
3	68,400	50	175	15	240
計	645,400	610	1,439	83	2,132

※その他：病院への入退院、施設への入退所など

5 介護機器貸し出し事業

健康増進と家族の身体的、精神的な負担の軽減を図り、社会参加を促進することを目的として、在宅の寝たきり高齢者及び障がい児（者）などに対して車椅子及び歩行器を貸し出しました。

(単位：件)

	3年度	2年度	増減
車椅子	290	169	121
歩行器	1	1	0

6 入れ歯リサイクル事業

入れ歯に使われている金属をリサイクル資源として回収し、収益金を世界中の恵まれない子供たちのために役立てようとする「入れ歯リサイクル事業」を行いました。総合保健福祉センター及び社会福祉センターに回収ボックスを設置し、投入された入れ歯をNPO法人日本入れ歯リサイクル協会が回収し、益金を日本ユニセフ協会へ納めています。

(単位：円)

	3年度	2年度	増減
収入金額	12,607	59,030	△46,423

7 日本赤十字社との連絡及び協力

①日本赤十字社社資募集 (単位：円)

実施期間	3年度	2年度	増減額
5月	4,782,100	4,681,392	100,708

※日本赤十字社三重県支部亀山市地区事務局

8 亀山市社会福祉法人連絡会への参画及び支援

市内に事業所がある社会福祉法人が相互に連携及び情報共有、地域における公益的な取り組みを推進するため、亀山市社会福祉法人連絡会への参画及び事務局支援を行いました。

◆役員会 (2回)

第1回 令和3年7月2日(金)

- 協議事項 (1) 今年度の活動内容について
(2) 会費について
(3) 新規参画法人について

参加団体 6法人

第2回 令和4年2月18日(金)

- 協議事項 (1) 貸出備品のパンフレット作成について
(2) BCP研修アンケートについて
(3) ホームページ作成について
(4) 令和4年度 業計画及び収支予算について

参加団体 4法人

◆全体会 (2回)

第1回 令和3年9月13日(月)

- 協議事項 (1) 地域公益活動への取り組みについて
参加団体 14法人、亀山市(オブザーバー)

第2回 令和4年3月17日(木)

協議事項 (1) 貸出備品のパンフレット作成及び今後の運用方法について

(2) BCP研修アンケートについて

(3) ホームページ作成について

(4) 令和3年度 事業報告及び収支決算見込について

(5) 令和4年度 事業計画(案)及び収支予算(案)について

参加団体 11法人、亀山市(オブザーバー)

9 実習生の受入

社会福祉士養成課程における相談援助実習について、同朋大学の学生1名と皇學館大学の学生1名を受け入れました。

実習期間：令和3年8月16日(月)～26日(金)【9日間】

11月8日(月)～1月24日(火)の間【12日間】

※緊急事態宣言発令に伴い、実習期間が変更になりました。

10 福祉団体の事務及び助成

①団体事務局

(1) 亀山市民生委員児童委員協議会連合会

(2) 亀山市老人クラブ連合会

(3) 亀山保護司会

(4) 亀山更生保護女性会

(5) 亀山市遺族会

②団体助成

(1) 亀山市民生委員児童委員協議会連合会 (共同募金配分金) 80,000円

(2) 亀山更生保護女性会 (共同募金配分金) 100,000円

(3) 亀山市自治会連合会 (共同募金配分金) 0円(250,000円)

※(3)については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業中止により助成金返還

2 地域福祉事業【地域福祉係】

1 第2次亀山市地域福祉計画（後期）の一体的策定

前期計画では、市が策定する地域福祉計画と基本理念・基本目標・めざす姿を共通とし、計画を推進してきました。後期計画では、高齢・障がい・子ども・生活困窮など分野を問わず、全世代・全対象型の重層的な支援体制が社会福祉法で位置づけられた中で、市とより一層の推進を強化し地域福祉を推進していくため、地区懇談会や福祉団体へのヒアリングを行いながら一体的に策定しました。

①亀山市地域福祉計画推進委員会の開催

第1回 令和3年5月10日（月）（オンライン開催）【出席者】委員14名

議 題

- ・地域福祉推進委員の委嘱及び委員長・副委員長の選任について
- ・地域福祉計画、地域福祉活動計画の一体的な策定について
- ・第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画（後期）に係るアンケート調査等について
- ・地域福祉に関する市民アンケート調査について

第2回 令和3年8月19日（木）（オンライン開催）【出席者】委員14名

議 題

- ・第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画（前期計画）の評価について
- ・後期計画策定における各種調査の概要及び骨子案について

第3回 令和3年11月29日（月）（オンライン開催）【出席者】委員14名

議 題

- ・亀山市ひきこもりに関する実態調査について
- ・第2次亀山市地域福祉計画（後期）の中間案について

第4回 令和4年1月29日（月）【出席者】委員14名

議 題

- ・第2次亀山市地域福祉計画（後期）の最終案について

②ヒアリング調査の実施

第2次地域福祉計画（後期）の策定にあたり、各団体・機関における活動状況や現在抱える課題などについて把握するため、ヒアリングシートに基づき、聴き取りを実施しました。

実施期間 4月～7月

- 調査先
- ・地域ヒアリング（全22地区まちづくり協議会）
 - ・活動団体ヒアリング（12団体）
 - ・地域福祉（成年後見含む）団体関係ヒアリング（15団体）
 - ・ひきこもり関係団体ヒアリング（15団体）

◇ヒアリング調査結果について

第2次亀山市地域福祉計画〔後期〕p86～p96に掲載しています。
（本会ホームページからもご覧いただくことができます。）

③職員研修の実施

第2次地域福祉計画（後期）の策定にあたり、職員が共通の認識をもって地域福祉を推進していくことを目的に、研修会を実施しました。

実施日 令和3年10月5日（火）

場 所 社会福祉センター

テーマ 第2次亀山市地域福祉計画（後期）策定に向けて

内 容 講義及びグループワーク

講 師 株式会社日本開発研究所三重 研究部長 館 啓司 氏

出席者 15名

2 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置 <市受託事業>

既存の法制度では支援することが困難な「制度の狭間」の問題（ゴミ屋敷、引きこもり、孤独死など）、多様化・複合化する福祉課題の解決に取り組むとともに、地域で福祉課題を解決する仕組みを構築し、地域における助け合い・支え合い活動を支援するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を設置しました。（専任2名、兼務2名の計4名）

①相談実績

◆相談件数

（単位：件）

	個別支援					地域支援	3年度	2年度	増減
	高齢	障がい	母子	その他 (困窮者)	複合的な課題 を抱えた世帯				
新規相談	8	10	0	11	6	4	39	76	△37
延べ相談	104	380	3	125	657	171	1,440	1,498	△58

◆相談経緯（新規）

（単位：件）

	本人	民生委員 福祉委員	地域 住民	家族	福祉 機関	医療 機関	行政 機関	教育 機関	その他	3年度
相談件数	10	8	4	4	5	1	5	0	2	39

②地域への周知・関わり・会議への参加

地域での話し合いの場に参加 15回

福祉委員会への参加 16回

地域ケア会議 5回

③多機関協働による包括的支援体制の推進

市では複合的な課題を抱える世帯等に対し、分野を超えた多機関による支援が行えるよう、市に配置している相談包括化推進員とコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が連携し課題解決に向け取り組む包括的支援体制を推進しています。昨年度は、CSWにつなぐ「つながるシート」を活用し、小中学校等における福祉課題を抱えた世帯を支援につなぐ「教福連携」を推進し、さらに令和3年度は市の窓口業務がある部署を中心に、福祉課題を相談支援につなげることができるよう全庁展開を図りました。

- ・ 支援会議・相談支援包括化サポート会議の開催：12回（月1回開催）
- ・ サポート担当者会議：32回
- ・ トータルケアプラン作成件数：22件（新規8件、継続14件）
- ・ 終結件数：8件
- ・ 多機関協働による包括的支援体制づくり（全庁展開）に向けた説明会（7月～8月）
総合政策部、生活文化部、産業建設部、上下水道部、教育委員会、地域医療部（計15課）
- ・ 重層的支援体制整備事業に向けた研修会の開催【オンライン開催】（市と共催）
実施日 令和3年8月25日（水）
講師 大分県臼杵市高齢者支援課 石井 義恭 氏
出席者 市12名 社協7名

3 小地域ネットワーク活動事業

①地区福祉委員会の設置促進及び活動支援

(地区まちづくり協議会助成事業) <社協会費>

福祉のまちづくりを進めていく地域福祉の推進役として、全 22 地区 340 名の方に委嘱しました。また、地域特性に応じた福祉活動を展開することを目的に助成事業を行うとともに、地区福祉委員会が行う交流活動や訪問活動、研修会などについてコーディネートを行いました。

・福祉委員の選出 計 340 名 (2 年度 343 名)

<地区まちづくり協議会別福祉委員活動状況>

(単位：名、地区)

No	地区名	委員	小地域ネットワーク活動・地区福祉委員会活動助成事業(主な事業)
1	昼生	7	小学生と一人暮らし高齢者訪問、竹馬づくり教室
2	井田川南	31	ふれあいグランドゴルフ大会、高齢者訪問
3	井田川北	36	高齢者への花プレゼント(訪問活動年2回)
4	川崎	28	高齢者訪問
5	野登	16	配食訪問
6	白川	10	小学生との一人暮らし、二人暮らし訪問活動、高齢者と小学生の交流
7	神辺	15	高齢者訪問、ふれあいキッズカフェ、ふれあい健康体操
8	野村	29	高齢者訪問、いきいきサロン、ぴよぴよサロン
9	城東	6	しろやまサロン、高齢者訪問
10	城西	10	高齢者訪問
11	城北	8	一人暮らし高齢者訪問、全戸訪問活動
12	御幸	9	高齢者訪問、感謝のつどい
13	本町	7	いきいきサロン「地域の茶の間」、春のつどい
14	北東	7	一人暮らし高齢者訪問、自遊ひろば、クリスマス会、全戸訪問活動
15	東部	29	高齢者訪問、記念品に添えるメッセージ募集
16	天神・和賀	11	一人暮らし高齢者訪問活動、ミニサロン
17	南部	9	高齢者訪問
18	関宿	36	高齢者見守り訪問活動、ゴキブリ団子作り
19	関北部	7	高齢者訪問
20	関南部	11	高齢者訪問、民生委員との情報交換会、ふれあい交流会
21	加太	7	高齢者訪問
22	坂下	11	配食訪問活動、敬老会
	計	340	

②福祉委員研修会

(1) 福祉委員新任研修会

福祉委員活動を行うための実践的な技術と意識の向上を図るために、個人ワークを用いながら、新任の福祉委員を対象に研修会を2回に分けて開催しました。

実施日 令和3年12月3日(金)、17日(金)

場 所 社会福祉センター

内 容 講義及び個人ワーク

テーマ 『福祉委員の役割を地域の身近な「見守り活動」から考えあってみましょう』

講 師 地域福祉係

参加者 40名

(2) 福祉委員研修会(障がい理解について)

障がいの概念や生活のしづらさ、関わり方を学び、全ての方が住み慣れた地域でお互いに支え合い生活し続けられるよう共生社会の実現に向け研修会を開催しました。

実施日 令和3年12月17日(金)

場 所 社会福祉センター

内 容 講義

テーマ 『障がいがある』ってどんなこと？

講 師 市健康福祉部地域福祉課障がい者支援グループ 新海 理恵 氏

障害者総合相談支援センターあい 森野 高史 氏

参加者 50名

(3) 福祉委員対象認知症サポーター養成講座

地域包括支援センターと共催で、認知症の正しい理解と日頃の見守り活動に役立てることを目的とし、「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

実施日 令和3年12月3日(金)

場 所 社会福祉センター

内 容 講義及び個人ワーク

講 師 地域包括ケア推進係

参加者 67名

③福祉委員活動動画の作成

地域福祉の推進役として日頃の見守りの大切さや各地域で福祉活動を行っている福祉委員の活動をわかりやすく伝えるため紹介VTRを作成しました。また本会公式YouTubeにて配信しています。

④安心見守り訪問事業 <歳末たすけあい配分金事業>

地区福祉委員会を中心に地域内の 75 歳以上ひとり暮らし高齢者を対象に見守り訪問活動を行い、不織布マスクを配布しました。

実施地区 22 地区

実施期間 令和 4 年 1 月～令和 4 年 3 月

(単位：件)

	3 年度	2 年度	増減
配布数	948	947	1

4 ボランティアセンター事業

①ボランティアセンター登録者（団体及び個人）

<50 音順>

No	団 体 名	活 動 内 容	3 年度	2 年度	増減
1	アモーレかめやま	市内施設・イベント等での演奏活動	15	15	0
2	あゆみの会	福祉施設ボランティア等	5	5	0
3	安心を備える女性の会(CEF)	女性の視点の防災・減災ボランティア	9	9	0
4	エアプランツ	乳がんについての広報活動、乳房パット作り	4		4
5	NPO 法人ぽっかぽかの会	障がい児（者）の就労の場を作るための各種活動	42	43	△1
6	オカリナアンサンブル・ラルゴ	オカリナ演奏で高齢者施設へ慰問	3	3	0
7	おはなしの会マミーズ	絵本の読み聞かせボランティア	12	12	0
8	介護アロマ三重サークル亀山	アロマ精油を使って高齢者施設へ慰問	11	9	2
9	かみきりむしの会	市内施設・教育機関等での工作ボランティア	9	10	△1
10	亀の会	ふれあい教室とのボランティア活動等	5	7	△2
11	亀山絵本と童話の会	絵本や童話の創作、絵本・折り紙教室等	15	15	0
12	亀山おもちゃの病院	おもちゃの病院（修理）の開院	14	14	0
13	亀山社中	地域福祉イベントの企画・運営	3	3	0
14	亀山点訳友の会	点字・点訳図書の作成と講習	11	12	△1
15	かめやま防災ネットワーク	防災に関する出前講座の実施	15	16	△1
16	亀山ボードゲーム会ひとつ	ボードゲームを通じた地域交流、イベントの実施	3	3	0
17	亀山民話を語る会	福祉施設・学校等での民話普及活動	12	12	0
18	亀山朗読奉仕会	市広報等の録音テープ作成等	11	13	△2
19	亀山ロマंचカ	施設等でのマジック・バルーンアート等	6	7	△1
20	カラオケボランティアローズ	高齢者施設でのカラオケボランティア	4	4	0
21	きぼうの会	野村きぼう苑での歌と踊りのボランティア	20	21	△1
22	義勇者(災害支援グループ)	災害支援活動全般	3	3	0
23	車椅子レクダンス協会亀山支部	車椅子レクダンスの練習、福祉施設訪問	11	11	0
24	クローバーの会	こころのサポートボランティア活動	22	20	2
25	傾聴かめやま	福祉施設での傾聴活動	10	10	0
26	国鉄・JR親睦会	福祉活動、奉仕活動全般	11	11	0

27	心のバリフタウン推進の会	バリアフリー専門調査員育成、マップの作成	12	12	0
28	子育て支援「かめのこ」	ファミリーサポート活動、託児ボランティア	102	102	0
29	災害通信ボランティアネットワーク亀山	災害時アマチュア無線ボランティア	15	16	△1
30	在宅福祉ネットワーク愛里寿	地域ネットワーク活動、施設・イベント等協力	33	46	△13
31	しいのみ会	老人施設の草取り、鈴鹿中央病院内活動等	22	22	0
32	たんぼぼ	福祉施設ボランティア、こどもボランティア教室等	4	4	0
33	つくしの家ボランティアサークル	福祉施設ボランティア等	6	6	0
34	椿世ひまわり会	町内イベント等の調理や高齢者宅の草刈り等	16	16	0
35	童謡ボランティア	華旺寿での童謡ボランティア	4	4	0
36	(特非) 亀っ子サポート	生きづらさを持つ青少年に並走型サポート	31	24	7
37	南京玉すだれはり香一座	福祉施設・学校等での南京玉すだれの疲労	5	5	0
38	福祉サポート隊	障がい者の入浴介助、あいあい周辺の環境整備等	7	7	0
39	ブルメリアフレンズ	福祉施設・病院等での音楽イベントの実施	7	7	0
40	文化等 華音	福祉施設・イベント等での演奏活動	30	30	0
41	みえ呼吸嚙下リハビリクリニック ボランティアグループ	在宅療養者の方の食事や買い物等の外出機会 を提供する	35	40	△5
42	みつくすどろっぶす	障がい児(者)と家族の交流の場、勉強会の開 催等	4	4	0
43	民謡 川崎瀧進絵会	福祉施設・イベント等での演奏活動	19	19	0
44	リンパ浮腫ケアと運動療法を 楽しむ会	リンパについての講演会等の実施	6	6	0
45	和の会	障がい者の集まる居場所づくり	10	10	0
	オレンジの会	ボランティア教室やイベント等の調理ボランティア		6	△6
	かぼちゃの会	高齢者サロン活動ボランティア		12	△12
	亀山自助具の会 ピノキオ	高齢者、障がい者、福祉施設のボランティア		11	△11
	関点訳友の会	点字・点訳図書の作成と講習		3	△3
	たすけあいクラブ	生活上の困りごとの支援、保健・福祉の勉強会		14	△14
	個人ボランティア	災害支援等	6	5	1
合計			660	719	△59

②ボランティア保険

安心してボランティア活動ができるための基礎環境の整備として、ボランティアセンター登録団体及び個人に対し、ボランティア活動保険助成を行うとともに、ボランティア保険の加入促進を図りました。

(単位：件、人)

	活動保険	行事用保険	福祉サービス 総合補償	送迎サービス 補償
件数	25	21	4	1
人数	1,813	1,325	1,211	50

③ ボランティアコーディネート

ボランティアを必要としている方、また活動を始めたい方などに連絡、調整、斡旋などのコーディネートを行いました。

(単位：件)

	3年度	2年度	増減
相談件数	28	36	△8

④ ボランティアセンター登録ネットワーク会議

ボランティアセンターに登録している団体を対象に、情報提供及び意見交換、相互の交流を目的に実施予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑤ ボランティア講座

ボランティア活動に関心を持ち、また潜在的なボランティア活動者がボランティア活動を始めるきっかけ作りになるようボランティア養成講座を実施予定でした。

実施予定日 令和4年1月21日(金)、28日(金)

2月4日(金)、18日(金)、25日(金)【全5回】

内 容 朗読ボランティア養成講座

講 師 亀山朗読奉仕会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑥ ボランティア交流会

ボランティア活動者が意見交換、情報交換を行うことによって、活動の現状や課題について情報を共有し、活動の活性化を図る目的に実施予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑦ 災害ボランティアセンター

(1) 災害ボランティアセンター設置訓練

亀山市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルに基づき、災害ボランティアセンターの設置訓練を実施予定でした。

実施予定日 令和4年1月29日(土)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 災害ボランティアセンター資機材の整備

災害ボランティアセンター運営における災害時対応資機材の整備を行いました。

【資機材】 粉塵マスク 100枚、踏み抜き防止中敷き 20組、バール 20本、

バケツ 20個、デッキブラシ 20本、一輪車 2台

(3) 亀山ライオンズクラブと自然災害発生時における協定の締結

自然災害発生時におけるボランティア活動に必要な資機材、車両、飲食物の提供、また専門性を活かした物的及び人的支援を円滑に行えるよう協定を締結しました。

締結日 令和3年6月29日(火)

名称 自然災害発生時における災害ボランティアセンター支援に関する協定書

協定者 亀山ライオンズクラブ

(4) 三泗鈴亀ブロック社協災害時広域連携協議会の設置

平時より三泗鈴亀ブロック内の市町社協の災害復興に係る取り組みを充実し、有事の際においても広域的な応援体制を円滑に行えるよう三泗鈴亀ブロック社協災害広域連携協議会を設置しました。

設置日 令和3年4月1日(木)

⑧災害ボランティア支援センター

災害ボランティア支援センターを設置し、ボランティア保険の加入手続き、義援金・支援金の募集などを行いました。台風に伴う警報時発令時に職員を配置し災害ボランティアセンター設置に備えました。

⑨福祉ボランティア基金助成配分事業 <福祉ボランティア基金事業>

ボランティアセンター登録団体又は個人が、社会福祉の向上のために行う福祉ボランティア活動に対して助成を行いました。

(単位：団体、円)

	3年度	2年度	増減
団体数	6	8	△2
助成金額	455,000	539,000	△84,000

⑩あいあい祭り 2021 ～であい ふれあい ささえあい～<福祉ボランティア基金事業>

あいあい祭り実行委員会事務局として、準備委員会において開催の可否を検討しました。

◆準備委員会の開催

実施日 令和3年6月21日(月)

場所 総合保健福祉センター

内容 あいあい祭り 2021(仮)の開催の可否について

※あいあい祭り 2021は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

5 福祉教育推進事業

①福祉教育推進助成事業 <共同募金配分金事業>

小中学校及び高等学校における福祉教育について、各学校の総合学習での福祉授業をはじめ、ボランティア紹介などを行い、社会福祉への理解と関心を高めることを目的に実施しました。また、学校と更なる連携を図るため、モデル校を指定するとともに、保育所、幼稚園、認定こども園に対しても地域交流等をとおして福祉の心を育ていけるよう助成事業を行いました。

・助成事業：計 1,900,000 円 (@50,000×14 校、18 園 モデル校@100,000×2 校、1 園)

・令和 3 年度モデル指定校、園：昼生保育園、関小学校、亀山高等学校

(単位：校、園)

保育所	12	第一愛護、第二愛護、みなみ、神辺、昼生（モデル園）、和田、川崎南、加太、第三愛護、川崎愛児、野登ルンビニ、なのはな
幼稚園	5	亀山、亀山東、井田川、みずほ台、みずきが丘道伯
認定こども園	2	アスレ、亀山愛児
小学校	11	亀山西、亀山東、亀山南、井田川、野登、川崎、神辺、昼生、白川、関（モデル校）、加太
中学校	3	亀山、中部、関
高等学校	2	亀山（モデル校）、徳風

(1) モデル指定校（園）との関わり

モデル校（園）を指定し、学校（園）と社協が協働で年間を通じてのプログラムを作成し、下記の内容の事業を行いました。

学校（園）名	内容
昼生保育園	・年間をとおして川遊びや魚釣りなど野外体験学習や農作物の収穫など、地域の方々や短大生と交流活動を行った。
関小学校	・民生委員・児童委員の役割について（6年生） 地域の民生委員・児童委員の方々と普段の活動や役割について紙芝居を用いて理解を深めた。 ・まわりのふくしを見つけよう（5年生） 車椅子、福祉車両、視覚、聴覚の4つの体験ブースを設けて高齢者や障がいのある方がどのような生活を送っているか体験をとおして学んだ。 また身近にあるユニバーサルデザインやバリアフリーについて、校内探検を行った。 ・認知症キッズサポーター養成講座（4年生） 認知症について正しい理解につなげるためクイズなどを交えて学んだ。
亀山高等学校	・生徒が考えたレクリエーションをまとめたレクリエーション集をサロン団体（92か所）に配布した。 ・75歳以上ひとり暮らし高齢者に手作りのティッシュカバーをプレゼントした。 ・高齢者施設に手作り作品（フォトフレーム、カレンダー）をプレゼントした。

(2) 学校からの福祉教育依頼

学校からの福祉教育依頼を受け、学校と社協が共にプログラムを作成し、職員が講師として授業を行いました。

実施日	学校名	内容
11月2日(火)	亀山西小学校(6年生)	高齢者の人について知ろう
11月25日(木)	川崎小学校(4年生)	高齢者疑似体験 認知症キッズサポーター養成講座
12月15日(水)	昼生小学校(4年生)	ふくし体験 ・視覚狭窄症体験、点字ブロック体験、車いす体験
12月16日(木)	徳風高等学校(2年生)	人権学習～障がい理解について～

②夏休み中学生福祉体験教室 <市補助事業>

夏休みの5日間、市内の社会福祉施設において、高齢者や障がい者の方々とふれあい・交流を通じて、福祉に対する理解を深めることを目的に開催予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

③街頭募金活動

福祉教育の推進及び地域の福祉活動を行う財源確保を目的に、市内の中学・高校生らに街頭募金活動を実施予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

6 サロン活動推進事業

①ふれあい・いきいきサロン・子育てサロン・コミュニティサロン助成事業

<市補助事業・福祉ボランティア基金事業>

地域住民やボランティアが主体となって、コミュニティセンターや集会所など地域の身近な場所を活用し、集まって過ごす「憩いの場」を作る「サロン活動」に助成いたしました。

(単位：円、名)

		3年度 箇所数	2年度 箇所数	増減	助成金額	延べ参加数
高齢者	既存	85	92	△7	2,688,000	19,104
	新規	6	2	4	158,488	
	計	91	94	△3	2,846,488	
子育て	既存	5	4	1	174,000	1,320
	新規	0	1	△1	0	
	計	5	5	0	174,000	
コミュニティ	既存	13	12	1	318,000	2,321
	新規	1	1	0	36,000	
	計	14	13	1	354,000	
合計		110	112	△2	3,374,488	22,745

②子育てサロン交流会

小さな子どもを持つ親たちが地域で安心して子育てができるよう、サロン活動を行う上の悩みや解決方法について意見交換を行うとともに、相互の交流を深めることを目的に開催予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

③コミュニティサロン交流会

市内の「コミュニティサロン」を実施している団体間において、交流を深めることによりサロン活動の充実を図ることを目的に開催予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

7 広報啓発事業

①社協だよりの発行（年4回）

社会福祉協議会が行う事業をはじめ、地区福祉委員会やボランティアなどの地域における福祉活動を市民に啓発するため、年4回、市内全世帯に配布いたしました。

第66号 令和3年7月1日「もっと知ってほしい！地域包括支援センター」等

第67号 令和3年10月1日「令和2年度決算報告・事業報告」等

第68号 令和4年1月1日「厚生労働大臣表彰受賞 亀山朗読奉仕会 岡益代さん」等

第69号 令和4年4月1日「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」等

②ホームページ・フェイスブックの運営

インターネットを利用して最新の情報や各種募集（助成金など）、社会福祉協議会の概要や活動内容について情報発信を行いました。

（単位：回）

更新回数	3年度	2年度	増減
お知らせ・新着情報	43	44	△1
フェイスブック	142	118	24

HP アドレス <http://kameyama-shakyo.or.jp/>

③ホームページのリニューアル

近年、スマートフォンからの閲覧が一般化する中、多様なデバイスから可能とし、本会の活動をSNSやYouTube配信等も活用し、よりわかりやすく閲覧者に情報提供を行うため、ホームページのリニューアルを行いました。

公開日 令和4年3月1日

④FM ラジオの情報発信

毎月1回鈴鹿 VoiceFM（78.3Mhz）にて「ラジオかめやま社協だよりに職員が出演し、本会の活動紹介をはじめ、福祉事業についての説明や相談窓口の案内などを行いました。

放送日 毎月第2火曜日 14：20 頃から

出演回数 令和3年11月から計6回出演

8 各種福祉事業

①高齢者支援

(1) 団体助成

◆亀山市老人クラブ連合会 (共同募金配分金) 430,000 円

(2) 歳末たすけあい援護金 <歳末たすけあい配分金事業>

◆措置施設入所者(無年金)、契約施設入所者(無年金) 1件 3,000 円

②障がい児(者)支援

(1) 団体助成

◆亀山市特別支援教育振興会 (共同募金配分金) 130,000 円

(2) 障がい児交流事業 <共同募金配分金事業>

高等学校の生徒と、市内在住の障がいのある児童を対象に、相互の親睦と高校生とのふれあい交流を通して共生社会の実現に向け実施予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(3) 歳末たすけあい援護金 <歳末たすけあい配分金事業>

◆特別児童扶養手当受給者 95件 285,000 円

◆障害児福祉手当受給者 38件 114,000 円

◆特別障害者手当受給者 31件 93,000 円

◆福祉手当受給者 1件 3,000 円

合計 165件 495,000 円

③子育て支援

(1) 団体助成

◆亀山市子ども会育成者連絡協議会 (共同募金配分金) 0 円 (60,000 円)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業中止により助成金返還

(2) 生活保護世帯入学祝金、修学旅行費補助<歳末たすけあい配分金事業>

◆生活保護家庭新入学児童生徒への祝金 1名 5,000 円

◆生活保護家庭小中学校修学旅行補助 2名 15,000 円

(3) 歳末たすけあい援護金 <歳末たすけあい配分金事業>

◆準援護家庭 328件 984,000 円

◆施設入所児童 9件 27,000 円

④低所得者支援

(1) 団体助成

◆亀山みんなの食堂 (共同募金配分金) 500,000 円

(2) 歳末たすけあい援護金 <歳末たすけあい援護事業>

◆生活保護世帯 146件 460,000 円

⑤多文化共生への支援

(1) 団体助成

◆亀山国際交流の会 (KIFA) (共同募金配分金) 60,000 円

9 共同募金会との連絡及び協力

①赤い羽根共同募金運動

(単位：円、%)

実施期間	目標額	3年度	達成率	2年度	増減額	前年比
10月～12月	5,499,600	5,485,136	99.7	5,377,498	107,638	102.0

②歳末たすけあい募金運動

(単位：円、%)

実施期間	目標額	3年度	達成率	2年度	増減額	前年比
10月～12月	2,400,000	2,274,169	94.8	2,348,515	74,346	96.8

③亀山市共同募金委員会運営委員会の開催

第1回 令和3年6月11日(金)【書面決議】

議 題

- ・運営委員及び審査委員の辞任に伴う後任の選任について
- ・令和2年度 事業報告及び収支決算について
- ・令和3年度(令和4年度充当)一般募金配分申請について
- ・令和3年度歳末たすけあい募金配分申請について

第2回 令和4年3月18日(金)【出席者】運営委員7名

議 題

- ・令和4年度 事業計画及び収支予算について
- ・任期満了に伴う運営委員及び審査委員並びに監事の選任について

3 生活支援事業【生活支援係】

1 総合相談事業 <市補助事業>

①福祉なんでも相談

生活困窮者自立支援事業の相談窓口を活用し、福祉全般の相談を受ける「福祉なんでも相談窓口」を開設して、複合的な福祉課題を抱える相談者に対し、支援会議を通じて適切な相談援助を行いました。

②心配ごと相談（公証人等による相談）

市の法律相談と連携しながら、相続、遺言、金銭貸借、離婚等に関することに対して公証人による適切な助言、指導を行う相談とともに、日常生活上あらゆる心配ごとに応じるため、民生委員・児童委員及び学識経験者による心配ごと相談を毎月第2・第4金曜日に開催しました。

(単位：日、件)

	3年度	2年度	増減
開設日数	19	23	△4
相談件数	75	86	△11

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3回中止

③社協による法律相談

成年後見制度などの権利擁護に関する相談に対し、弁護士による適切な助言、指導を行うことを目的に毎月30日（土日祝の場合は前の平日に繰り上げ開催）に開催しました。

(単位：日、件)

	3年度	2年度	増減
開催日数	10	12	△2
相談件数	28	37	△9

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回中止

④心配ごと相談員研修会

地域でさまざまな問題を抱えた世帯のニーズに応じていくために、相談員の専門知識の習得を目的に実施予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑤心配ごと相談所打合せ会議

相談員同士の意見交換や実績報告等を行うため、打合せ会議を開催しました。

	第1回	第2回
実施日	令和3年6月28日(月)	令和3年12月13日(月)
場所	総合保健福祉センター	総合保健福祉センター
内容	事業報告、意見交換等	事業報告、意見交換等
参加者	8名	7名

2 日常生活自立支援事業 <県社協受託事業>

認知症高齢者や知的・精神障がいを持つ方々が地域で安心して生活することを目的に、福祉サービス利用援助や日常的金銭管理、書類等の預かりサービスを行いました。

三重県社会福祉協議会から事業を受託し専門員を配置し、行政等関係機関との連携を深め、利用者に寄り添ったサービスの提供を行いました。

◆支援回数 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
認知症高齢者	128	138	△10
知的障がい者	358	349	9
精神障がい者	354	326	28
その他	60	70	△10
計	900	883	17

◆契約者数 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
認知症高齢者	9	7	2
知的障がい者	17	16	1
精神障がい者	12	12	0
その他	2	2	0
計	40	37	3

◆生活支援員関係 (単位：名、回)

	3年度	2年度	増減
生活支援員	13	11	2
派遣回数	719	690	29

◆生活支援員研修会

サービス提供に必要な知識及び技術の向上を図るため生活支援員を対象に実施予定でした。

◇日常生活自立支援事業について

今年度は利用者の死亡と成年後見制度への移行で解約が2件ありましたが、新規契約者が5名あり、3月末の利用者数は40名となりました。地域包括支援センターの圏域再編に伴い、基幹型と2圏域の地域型地域包括支援センターの3か所になったことで相談件数が増加し、新規契約者の増につながりました。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、施設に入所や通所をしている利用者にはなかなか面会できず、施設職員等を通じての支援となりました。

3 成年後見制度の活用促進

国では各市町に対し、適切な後見人の選任を行うマッチング機能と意思決定支援・身上監護を重視した後見活動を行う後見人支援機能を備えた中核機関の設置を求めており、市からの受託に向け先進地視察の実施や研修会等への参加、法人後見の検討等、市と協議を行いました。

◆先進地視察

実施日 令和3年7月16日（金）

場 所 愛知県豊田市成年後見支援センター

◆部内協議会（市担当部局との協議）

【第1回】 令和3年4月7日（水）

内 容：各部署・機関の役割分担について

【第2回】 令和3年7月27日（火）

内 容：先進地視察の情報提供と前回協議事項の進捗状況について

【第3回】 令和4年2月2日（水）

内 容：成年後見サポート事業業務委託について

◆情報交換会（県社協主催：オンライン）

実施日 令和3年8月25日（水）

内 容 地域における中核機関設置手続き、後見制度の運用に係る課題について

4 生活困窮者自立支援事業 <市委託事業>

社会的孤立や経済的困窮などの課題を抱えた方への相談支援をはじめ、きめ細やかな支援の体制づくりを行っていくことを目的に、自立相談支援事業と住居確保給付金（必須事業）及び家計改善支援事業（任意事業）を実施しました。また、「福祉なんでも相談窓口」として生活困窮者に限らず複合的な福祉課題を抱えた方からの相談に応じました。専門員3名を配置し、相談者の生活課題を把握・整理し課題の解決に向け、相談者の状況に応じた包括的・伴走的な支援を行いました。今年度も新型コロナウイルスの影響で生活にお困り方からの相談が多くありましたが、昨年度と比較すると相談件数は大幅に減少しました。

◆相談実績

（単位：件）

	3年度	2年度	増減
新規相談件数	226	595	△369
延べ相談件数	1,942	2,488	△546
プラン作成件数	21	16	5
家計改善支援利用件数	14	13	1
支援中断	0	1	△1
支援終了	7	5	2
住居確保給付金	30	58	△28

◆年代別構成 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
10～20代	41	84	△43
30～40代	89	291	△202
50～60代	55	164	△109
70代～	23	30	△7
不明	18	26	△8

◆区分（重複あり） (単位：名)

	3年度	2年度	増減
高齢者	31	54	△23
母子家庭	19	37	△18
障がい者	13	21	△8
外国人	53	287	△234
稼働・失業者等	177	510	△333
ケガ・疾病等	8	16	△8
ひきこもり	3	4	△1
不明	5	23	△18

◆支援会議・相談支援包括化サポート会議の開催

相談者に対する支援プランの適切性、進捗状況、終結時の評価等について協議するために開催しました。必要に応じて市役所の関係部局、関係機関にも参加要請を行い連携を図りました。

開催回数：年間12回

◇生活困窮者自立支援事業について

延べ相談件数としましては昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で減収・失職した方からの相談が全体の約9割を占めており、依然として市民生活にコロナが大きな影響を及ぼしていることがわかります。緊急事態宣言により店舗を休業等の自営業の方には資金貸付事業や緊急食糧提供事業等社協で実施している制度のみならず、市や県が行う給付金等も可能な限り情報を集め、迅速に相談者に提供しました。延べ相談件数の約4割が外国人からの相談で、派遣就労等で不安定な雇用条件のため生活にお困りの方からの相談に応じました。生活困窮で住居を喪失する恐れがあるため、市が支給する住居確保給付金の申請も昨年度に引き続き多くみられました。

5 貸付相談及び貸付事業

低所得や障がいなど複合的な問題を抱えたケースが増加していることから、従来の生活福祉資金貸付相談をはじめ多重債務相談や住宅支援相談等、より実情に応じた様々な相談に対し、包括的かつ柔軟な対応に努めています。

①生活福祉資金等貸付相談及び貸付業務 <県社協受託事業>

三重県社会福祉協議会が行う低所得者、高齢者、障がい者などに対する生活福祉資金の貸付に関して業務の一部を受託し、経済的自立や生活意欲の助成促進、社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるよう支援することを目的に実施いたしました。

また新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、貸付対象を低所得世帯以外に拡大し、休業や失業等で収入が減少した方を対象に新型コロナ特例貸付を実施いたしました。

(単位：件)

	3年度	2年度	増減
相談件数	60	27	33
貸付件数	8	6	2
長期滞納者の面談	0	1	△1

◆貸付残高件数 (令和4年3月31日現在)

(単位：件)

	3年度	2年度	増減
総合支援資金 (生活支援費)	12	15	△3
緊急小口資金	26	28	△2
臨時特例つなぎ資金	2	2	0
福祉資金 (その他)	14	10	4
合計	54	55	△1

◆新型コロナ特例貸付 (令和4年3月31日現在)

(単位：件)

	3年度	2年度	増減
新型コロナ特例貸付相談件数	549	1,502	△953
新型コロナ特例貸付申請件数	275	765	△490
【内訳】 緊急小口資金	108	353	△245
総合支援資金	68	275	△207
総合支援資金の延長	8	71	△63
再貸付	91	66	25

②福祉金庫貸付業務

市内の生活困窮者に対して、緊急を要する資金として上限 30,000 円の貸付を行うことにより、円滑な社会生活を送れるようにすることを目的に貸付事業を実施いたしました。

(単位：件、円)

		3 年度	2 年度	増減
貸付	件 数	0	1	△1
	金 額	0	30,000	△30,000
償還	件 数	0	1	△1
	金 額	0	30,000	△30,000

(不納欠損処分：2 件 59,000 円)

◆貸付残高件数（令和 4 年 3 月 31 日現在） (単位：件)

	3 年度	2 年度	増減
福祉金庫	3	5	△2

6 緊急食糧等提供事業

市内在住の低所得者等が、緊急的かつ一時的に生活の維持が困難となった場合に食糧等の生活に必要な現物等を提供し、自立に向け社会生活が送れるよう支援を行いました。

①生活困窮者支援緊急食糧提供事業・緊急時物品等支援事業（みえ福祉の「わ」創造事業）

NPO セカンドハーベスト名古屋を通じて 3 週間分の食糧を 3 回まで提供しています。可能な限り、食物アレルギーへの対応もしています。

また就職活動の準備のために必要なものや緊急性の高い必要な日用品を提供しています。

(単位：件)

	3 年度	2 年度	増減
生活困窮者支援緊急食糧提供事業	134	166	△32
緊急時物品等支援事業	14	27	△13

②三重県食品提供システムポータルみえ〜る（県廃棄物・リサイクル課事業）

企業等の団体から無償で提供される食品について、提供者（企業等）と受取者（フードバンク活動団体等）とのマッチングをウェブ上でを行い、食糧支援につなげるシステムの運用が 7 月から開始され、本会も登録し支援活動に活用しています。

登録年月日 令和 3 年 8 月 5 日（木）

提供回数 7 回

提供食品 レトルト食品（ご飯・カレー・中華丼・ハンバーグ）、非常食用パン等

③生活協同組合コープみえと生活困窮者対策支援に関する協定を締結

生活協同組合コープみえと生活困窮者対策支援に関する協定を締結しました。この締結により、コープみえが取り扱う食品や日用雑貨（キャンセル商品や在庫商品等）を無償でご寄附頂けることになりました。

締結年月日 令和3年11月30日（火）

提供回数 4回

提供物品 米、カップ麺、レトルトカレー、飲料、洗剤、サランラップ等

④亀山市社協災害時等備蓄品

本会が備蓄している災害時等備蓄品（保存用缶入りソフトパン、ビスケット、飲料水）を緊急的かつ一時的に生活の維持が困難となった方に提供しました。

（単位：件）

	3年度	2年度	増減
亀山市社協災害時等備蓄品の提供	20	28	△8

7 あんしん賃貸支援事業 <三重県居住支援連絡会助成事業>

高齢者、障がい者世帯等の入居を受けられる民間賃貸住宅に関する情報などを提供し、住居の安定確保と安心できる賃貸借関係の構築を目的に居住支援を行いました。

会議への参加 三重県居住支援連絡会作業部会 2回

4 地域包括支援センター事業【地域包括ケア推進係】

1 基幹型地域包括支援センター事業 <鈴鹿亀山地区広域連合委託事業>

基幹型地域包括支援センターは、従来の地域包括支援センター機能（地域住民の保健・福祉・医療の向上を一体的に連携し実施する中核機関）に加え、2か所の地域型地域包括支援センターの平準化や後方支援の役割を担いました。

また、地域型地域包括支援センターや多職種の専門職等が支援する個別事例から地域課題を把握し、地域ケア会議等の開催及び開催支援を行いながら、地域の新たな仕組みづくりに繋げる働きかけを行いました。

さらに、従来亀山市内に1か所でありました地域包括支援センターが、地域型・基幹型併せて3か所となったことで、センター同士の協力し合える関係性が構築され、職員の安心と意欲の向上につながっています。

- ・ 亀山市基幹型地域包括支援センターきずな（亀山市社会福祉協議会）
- ・ 亀山第1地域包括支援センターぼたん（安全福祉会）
- ・ 亀山第2地域包括支援センターもくれん（安全福祉会）

①総合相談・支援事業

高齢者の生活や認知症などの疾患、介護保険制度、施設入所などに関する相談や悩みのほか、福祉や医療、生きがいなどの相談に応じました。

◆相談件数 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
延べ対応件数	624	1,849	△1,225

◆うち成年後見相談件数 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
延べ対応件数	19	74	△55

◆うち認知症相談件数 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
延べ対応件数	127	210	△83

◆地域型地域包括支援センターからの相談件数 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
延べ対応件数	103	—	103

②地域包括支援センター運營業務の平準化

圏域において対応にばらつきがないよう地域型地域包括支援センターとの情報共有や話し合いの場の設定を行いました。

	回数	議 題
センター長会議	9回	亀山市・広域連合・各センター間の情報共有
保健師ワーキング	9回	総合事業の利用やケアプラン作成について 介護保険申請状況の把握・データ考察
主任CMワーキング	12回	居宅介護支援事業所との連携、介護と医療の連携、 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務マニ ュアル作成に向けた意見の集約、自立支援型地域ケ ア会議について
社会福祉士ワーキング	9回	高齢者虐待対応マニュアル改訂に向けた意見の集約

③地域型地域包括支援センター(2圏域)への後方支援

(1) 個別ケア会議への出席及び開催支援

後方支援の一環として、困難事例に対し地域型地域包括支援センターと協働し、同行訪問やケース検討を行いました。また、地域型地域包括支援センターが個別ケア会議を開催できるよう、開催に向けて専門的な視点での話し合いや、関係機関の調整等を行い、開催を支援しました。

実施日	議題	担当包括
9月18日	徘徊のある高齢者の地域での見守りや支援について	第1包括
10月15日	地域住民等による家事支援協力の可能性の検討	第2包括
10月25日	認知症のある独居高齢者の地域の見守りについて	第1包括
11月6日	独居高齢者の徘徊時の見守りを地域でどう支えていくか	第2包括
3月17日	認知機能低下がみられる独居の方の地域での支援について	第1包括

(2) 高齢者虐待対応

通報、相談を受けた案件について地域型地域包括支援センターとともに現地状況確認、相談支援を行いました。また、後方支援として、関係機関との連絡調整を図り、迅速かつ安全に保護できる環境を整えました。市主催の虐待コアメンバー会議・虐待評価会議に出席し、昨年度から対応継続している案件も含め、今後の対応と虐待判定について協議を行いました。

◆相談対応件数

(単位：件)

	3年度	2年度	増減
新規相談件数	17	9	8
延べ相談件数	86	87	△1

◆相談内容（重複あり）

（単位：件）

	3年度	2年度	増減
身体的虐待	33	70	△37
経済的虐待	40	4	36
心理的虐待	36	35	1
性的虐待	0	0	0
介護放棄	24	15	9

◇高齢者虐待について

虐待案件の今年度の傾向として、高齢者（親世代）が介護が必要となってきた状況に家族（子ども世代）が適切に対応できず、結果介護放棄に繋がっているケースが多い傾向にありました。背景に8050問題や虐待者に精神疾患・発達障がい等の疾患を抱えている場合が多く、そういったケースについては高齢担当部署だけでなく、障がい担当部署との連携が重要となります。

④地域ケア圏域会議・地域ケア推進会議

個別の検討では解決できない地域の高齢者に共通する地域課題等を把握するとともに、行政職員や専門職・地域の関係者を交え、地域のネットワークの構築や、地域資源の開発、課題解決のための仕組みづくりの協議の場として、地域ケア圏域会議を開催しました。

特にコロナ禍において求められた、介護保険サービス事業所等専門職同士のネットワーク強化や資質向上を目的に、サービス事業所向けの地域ケア圏域会議を開催しました。

◆地域ケア圏域会議

開催目的	回数	参加者
地域に関わりを持つ専門職の役割を共有し、ネットワークを構築する	5回	市地域医療課地域医療G担当者、認知症地域支援推進員、第1地域包括支援センター担当者、第2地域包括支援センター担当者、第1層生活支援コーディネーター、第2層生活支援コーディネーター、コミュニティーソーシャルワーカー、生活困窮者自立支援事業担当者
制度改正や情報収集力が及ぼす高齢者の生活について明らかにし、必要な支援の仕組み等について検討する	2回	民生委員・児童委員、介護支援専門員、市長寿健康課高齢者支援G担当者、第2地域包括支援センター担当者、第1層生活支援コーディネーター、コミュニティーソーシャルワーカー
訪問介護事業所同士のネットワークを構築し、コロナ禍においてもスムーズに連携支援できるようにする	7回	主に在宅での支援を行っている訪問介護事業所管理者(6事業所)、市長寿健康課高齢者支援G担当者、市地域医療課地域医療G担当者、第1地域包括支援センター担当者、第2地域包括支援センター担当者
通所介護事業所同士のネットワークを構築し、サービスの質の向上を図る	2回	市内の通所介護事業所管理者、第1地域包括支援センター担当者、第2地域包括支援センター担当者

◆出席及び開催支援

目的	回数	参加者	担当包括
認知症高齢者の見守り体制を構築する	2回	自治会長、民生委員、老人クラブ会長、市長寿健康課高齢者支援G担当者、第1層生活支援コーディネーター、第2層生活支援コーディネーター	第1包括

◆地域ケア推進会議

地域ケア圏域会議で把握された内容を、地域づくり・地域の資源開発・政策形成等につなげるため、亀山市が開催する地域ケア推進会議に参加し、現状報告及び現状に対する提言を行いました。

内容 「訪問介護の担い手不足」

訪問介護の現状や今後の課題等について説明し、人材確保のための啓発や働きやすい環境整備等、亀山市全体で協議し取り組む必要があると説明しました。

⑤地域課題・地域資源の把握

(1) 訪問介護サービス実態に関するアンケート

地域ケア圏域会議の結果、今後特に需要が見込まれる訪問介護サービスについて、現状の体制では今後サービス不足が懸念されるという意見が多数出たため、利用状況等についてのアンケートを実施しました。

実施対象 ①市内の居宅介護支援事業所及び介護予防支援事業所においてケアマネジメント業務を行っている者(59名/22事業所)

②主に在宅での支援を行っている市内の訪問介護事業所(6事業所)

調査内容 ①訪問介護サービスと代替サービスの利用状況等

②サービス提供体制・人員体制・支援状況

◇アンケート結果について

訪問介護員の人材不足のため、希望する内容や日時で利用することができず、利用者やケアマネジャーが困っている実情が把握されました。そこで訪問介護サービス以外の代替サービス、「ちょこボラ」「シルバー人材センター」等について周知を深め、限られた資源の中で市民の在宅生活をどう支えていくかを一緒に考える勉強会の開催につなげました。

(2) 入所施設入所者実態調査

施設入所に至った背景・経緯を知ることによって在宅生活の継続に必要な支援や資源を探るため、聞き取り調査を実施しました。

実施対象 市内特別養護老人ホーム(5事業所)及び市内老人保健施設(1事業所)の利用者
計 50名

調査内容 入所当時の心身状況と入所理由

◇調査結果について

- ①入所者の家族構成に大きな差はなく、「家族がいるから介護ができる環境が整っている」とは言い切ることはいえない。
- ②転倒・骨折・脳梗塞などの急激な身体的変化や認知症の進行などから、継続的な見守が必要となり、在宅介護は難しいという判断に至っている。
- ③入院やロングショートステイ・他の施設からの入所が過半数を占めていた。
在宅から入所される場合、在宅で利用していたサービスの内容は、デイサービスやショートステイ等長時間利用できるタイプのサービス利用が大半であった。
- ④経済的に余裕がないと入所しにくい。

今後は認知症支援・フレイル予防・自立支援型の支援を中心とした新たな仕組みづくりを進めるため、関係部署と協議を重ねていきます。また、低所得者支援についての在り方を検討していく必要があります。

2 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置 <市受託事業>

高齢者が住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていけるよう本会に配置している第1層生活支援コーディネーターが第2層生活支援コーディネーター・認知症地域支援推進員・基幹型地域包括支援センターとともに、生活支援・介護予防のしくみづくりを進めました。

- ・第1層生活支援コーディネーター [市全域] (亀山市社会福祉協議会)
- ・第2層生活支援コーディネーター [2圏域] (安全福祉会)

①地域の現状把握（地域福祉カルテの更新）

市内にある各まちづくり協議会（22地区）を単位として人口・世帯・高齢化率のデータをはじめ、地域の福祉・医療・教育等の社会資源やインフォーマルな活動も含め「見える化」を図るため昨年度作成した地域福祉カルテの更新作業を行いました。今年度は、市まちづくり協働課と協働で作成し、内容の充実を図りました。

また、今年度初めて高齢者の生活支援に活用できる地域内の社会資源を整理・共有し、ニーズとのマッチングに活用できるよう「高齢者のための社会資源のしおり」を、基幹型地域包括支援センターや社会福祉法人安全福祉会に配置された第2層生活支援コーディネーターと連携して作成しました。

②ふれあい・いきいきサロン活動の推進

地域の社会資源であるふれあい・いきいきサロンへ訪問し、活動の把握に努めました。また、ふれあい・いきいきサロンの情報を多職種連携情報共有システム（バイタルリンク）において共有をし、ケアマネジャーからの依頼を受け、サロンを利用したいというニーズと団体のコーディネートを行いました。

◆ふれあい・いきいきサロン助成事業 <介護予防普及啓発事業>

地域住民やボランティアが主体となって、コミュニティセンターや集会所など地域の身近な場所を活用し、集まって過ごす「憩いの場」を作る「サロン活動」に助成いたしました。

(単位：円、名)

		3年度 箇所数	2年度 箇所数	増減	助成金額	延べ参加数
高齢者	既存	85	92	△7	2,688,000	19,104
	新規	6	2	4	158,488	
	計	91	94	△3	2,846,488	

◆ふれあい・いきいきサロン交流会

市内のふれあい・いきいきサロンを実施している団体間において、情報交換や交流を深めることにより、サロン活動の充実を図ることを目的に開催予定でした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

③住民同士の支え合い活動（ちょこボラ）の推進

高齢化が進む中、地域で住民同士がゴミ出しや庭の草取りなどちょっとした助け合い活動が行えるよう「ちょこボラ」を推進しています。地域まちづくり協議会（22地区）のうち、現在3地区がちょこボラ活動に取り組んでおり、会議の場に参加するなど意見交換や情報共有に努めたり、ケアマネジャー・訪問介護事業所対象の勉強会で周知を図るなど利用の促進につながるよう取り組みました。また、新たに立ち上げを検討しているまちづくり協議会への支援も行いました。

(単位：回)

活動先	回数	活動内容
ええやん助け合いよろづや縁 (坂下地区まちづくり協議会)	1	立ち上げ総会への参加
井田川北ささえ愛たい (井田川北地区まちづくり協議会)	2	定期総会・支援者会議への参加
フレンドサービス (昼生地区まちづくり協議会)	2	支援者会議への参加
城北サポート隊(仮) (城北地区まちづくり協議会)	14	住民参加型在宅福祉サービス立ち上げ支援 ※事前打ち合わせ含む

④地域でのネットワークの構築

地域に関係する専門職のネットワーク会議を開催し、専門職同士の情報共有や個別ケースの傾向などを共有し、個別支援から地域課題を抽出し、地域づくりにつなげられる仕組みについて、基幹型地域包括支援センターとともに検討しました。

地域型地域包括支援センターが主催する地域ケア圏域会議において、地域での見守り体制の構築などネットワークの構築に取り組みました。

3 認知症初期集中支援チーム員の配置 <市委託事業>

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、早期発見と適切な対処につながる支援ができるようチーム員医師・サポート医・関係機関との連携を継続しています。

◆相談件数 (単位：件)

	3年度	2年度	増減
相談件数	260	146	114
相談者数	49	24	25
初期集中支援チーム支援対象者数	12	6	6

徘徊事例や独居高齢者の事例の解決手法として、基幹型・地域型地域包括支援センターと協力して、地域ケア会議を開催しました。(3例)

◆認知症関係会議

認知症施策に関する実績報告や課題の評価・検討等を市担当者やチーム員医師・サポート医と共に協議しました。

- ・認知症関係会議(6月21日、10月18日、2月14日)※市認知症施策関係
開催回数：3回(年3回開催)
- ・認知症検討委員会(6月21日、2月14日)※認知症初期集中支援チーム関係
開催回数：2回(年2回開催 認知症関係会議と同日)

◆チーム員会議

チーム員医師との情報共有を実施し、個別ケースでの関り方や支援について方向性の確立と見直しを行いました。

令和3年11月より ケース支援を強化するため、基幹型・地域型地域包括支援センター主任ケアマネジャーも参加し協議を行っています。

開催回数：11回開催(月1回開催)※チーム員医師の都合により中止(7月)

4 認知症地域支援推進員事業 <市委託事業>

①認知症サポーター養成講座

認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職場において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成しました。

(単位：名)

実施日	内 容	参加者
8月2日	一般向け	24
10月1日	能褒野地区自治会関係	25
10月2日	下庄自治会見守り隊	17
10月28日	養護老人ホーム清和の里	15
10月29日	亀山市立関小学校4年生	41
11月2日	亀山市立亀山西小学校6年生(2回)	90
11月5日	亀山市立屋生小学校6年生	13
11月9日	亀山市立神辺小学校6年生	15
11月13日	井田川北まちづくり協議会	33
11月25日	亀山市立川崎小学校4年生(2回)	88
12月3日	亀山市内福祉委員	68
12月4日	亀山市ヒューマンフェスタ	12
1月14日	井田川北まちづくり協議会女性部	6
1月17・24日	亀山高等学校総合生活科2年生	34
計	16回	481

参考 令和2年度：5回 参加者140人

②認知症ステップアップ講座

(単位：名)

実施日	内 容	参加者
8月20日	一般向け(Web)	5

③高齢者の実態把握(グループホームへの聞き取り)

認知症の人が可能な限り住み慣れた地域で生活を続けていくために、入所までの在宅生活の様子や必要なサービス等についてまとめ、地域包括支援センターやケアマネジャー等と共有・検討し、在宅で生活する高齢者支援の一助になることを目指し、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)の入所者を対象に聞き取りを実施しました。

実施対象：市内認知症対応型共同生活介護(グループホーム)10事業所/114名

調査内容：入所当時の心身状況と入所理由

◇調査結果について

- ①独居世帯等における家族支援が難しい方の入所に限らず、どの世帯状況でも入所されている。
- ②ある一定の費用負担ができる方に限られる。
- ③認知症の症状の進行と介護負担は比例しており、負担の増加から家族が入所を選択している。

これらの結果をまとめ、市の認知症施策担当者とは共有し、地域での認知症理解の促進と共生について検討します。

4 福祉サービス事業【福祉サービス事業係】

1 訪問介護・居宅介護事業

【訪問介護員（ホームヘルパー）数】（令和4年3月31日現在）

・常勤：2名、登録：12名 <前年度末 常勤：2名、登録：12名>

①介護保険制度

（1）訪問介護事業

要介護認定を申請し、要介護と認定された方に入浴、排泄、調理、洗濯など生活全般にわたる訪問介護を行いました。

（単位：名、件、円、時間）

	3年度	2年度	増減
利用延べ人数	397	407	△10
派遣延べ回数	7,466	7,193	273
事業収入	23,653,939	22,966,002	687,937
派遣時間数	4,619.5	4,691	△71.5

（2）介護予防・日常生活支援総合事業

要支援及び事業対象者と認定された方に、介護予防を目的として調理、洗濯などの日常生活上の支援を行いました。

（単位：名、件、円、時間）

	3年度	2年度	増減
利用延べ人数	286	272	14
派遣延べ回数	1,763	1,769	△6
事業収入	5,361,295	5,389,922	△28,627
派遣時間数	1,574.5	1,549.5	25

②障害者総合支援制度

（1）居宅介護事業

障害福祉サービス受給者証の交付を受けた方に入浴、排泄、調理、洗濯など生活全般にわたる居宅介護を行いました。

（単位：名、件、円、時間）

	3年度	2年度	増減
利用延べ人数	232	262	△30
派遣延べ回数	1,792	2,318	△526
事業収入	5,325,035	7,179,787	△1,854,752
派遣時間数	1,407	1,800.5	△393.5

(2) 同行援護事業

障害福祉サービス受給者証の交付を受けた視覚障害の方に外出するための移動支援を行いました。(単位：名、件、円、時間)

	3年度	2年度	増減
利用延べ人数	8	10	△2
派遣延べ回数	13	25	△12
事業収入	96,737	148,237	△51,500
派遣時間数	36	49	△13

③地域生活支援事業<市委託事業>

障害福祉サービス受給者証の交付を受けた方に外出するための移動支援を行いますが、令和3年度は利用実績がありませんでした。

2 生活介護事業 【指定障害福祉サービス生活介護事業所「つくしの家」】

利用者やその家族が希望する生活を大切に、個別支援計画に基づき介護や行事、創作的活動、交流活動、余暇活動等を提供するとともに軽作業等の生産活動も行いました。

①職員配置

(単位：名)

職名		つくしの家	なかまの部屋
管理者			1
サービス管理責任者			1
医師			1
看護師			1
生活支援員	常勤	正規	1
		嘱託	0
		非常勤	4
	非常勤(登録)(兼務)	5	

②利用実績

(1) つくしの家(主たる事業所：定員25名)

(単位：名、回、円)

	3年度	2年度	増減
利用者数	26	24	2
延べ利用人数	4,125	4,100	25
送迎利用回数	6,766	6,434	332
事業収入	30,100,798	29,366,452	734,346

【新型コロナウイルス感染症に伴う休所期間】

- ・令和3年4月18日～令和3年5月5日(つくしの家関係者に陽性者が確認されたため)
- ・令和4年2月17日～令和4年2月27日(つくしの家関係者に陽性者が確認されたため)

(2) なかまの部屋 (従たる事業所：定員 12 名)

(単位：名、回、円)

	3 年度	2 年度	増減
利用者数	7	9	△2
延べ利用人数	988	1,287	△299
送迎利用回数	1,108	1,263	△155
事業収入	9,005,588	11,428,225	△2,422,637

③創作的活動 (年間行事)

季節に応じた行事等を経験し、見識を広めることで利用者が余暇を楽しむことができるよう支援するとともに、様々な場面や変化に順応できる力を伸ばせるよう支援しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から行事は、縮小・簡素化し取り組みました。

(1) つくしの家 (主たる事業所)

実施日	行事名	場所
4 月 9 日 (金)	季節の行事 (花見ウォークラリー)	亀山公園
6 月 1 日 (火) 2 日 (水) 3 日 (木)	季節の行事 (花菖蒲園見学)	亀山公園内花菖蒲園
7 月 7 日 (水)	季節の行事 (七夕まつり)	つくしの家
7 月 30 日 (金)	デリバリーランチ	つくしの家
8 月 27 日 (金)	季節の行事 (夏祭り)	つくしの家
10 月 29 日 (金)	季節の行事 (ハロウィン・デリバリーランチ)	つくしの家
11 月 12 日 (金)	ポチャリンピック (ポッチャ)	つくしの家
12 月 24 日 (金)	季節の行事 (クリスマス会・デリバリーランチ)	つくしの家
1 月 4 日 (火)	初詣	能褒野神社
1 月 7 日 (金)	季節の行事 (新年会)	つくしの家
2 月 3 日 (木)	季節の行事 (節分)	つくしの家
3 月 7 日 (月)	新規利用者歓迎会	つくしの家
<p>◆余暇活動</p> <p>なかまの部屋との交流 (季節の行事) (年 9 回)</p> <p>軽スポーツ (ウォーキング・ポッチャ・ボール当てゲーム等)</p> <p>制作活動 (写真パネルづくり・折り紙・アートタイム等)</p> <p>◆体調チェック</p> <p>看護師によるバイタルチェック (週 1 回)</p> <p>健康診断 (年 1 回)</p> <p>歯科検診 (年 1 回)</p> <p>嘱託医師による定期健診 (年 2 回)</p> <p>◆その他</p> <p>避難訓練 (年 3 回、内 2 回は全館避難訓練)</p>		

(2) なかまの部屋 (従たる事業所)

実施日	行事名	場所
4月9日(金)	季節の行事(花見ウォークラリー)	亀山公園
6月3日(木)	季節の行事(花菖蒲園見学)	亀山公園内花菖蒲園
7月7日(水)	季節の行事(七夕まつり)	つくしの家
8月27日(金)	季節の行事(夏祭り)	つくしの家
10月29日(金)	季節の行事(ハロウィン・テリハリーランチ)	つくしの家
11月12日(金)	ボチャリンピック(ボッチャ)	つくしの家
12月24日(金)	季節の行事(クリスマス会・テリハリーランチ)	つくしの家
1月7日(金)	季節の行事(新年会)	つくしの家
1月28日(金)	季節の行事(初詣)	関神社
2月3日(木)	季節の行事(節分)	つくしの家
<p>◆余暇活動</p> <p>つくしの家との交流(季節の行事)(年9回)</p> <p>軽スポーツ(ウォーキング・体操等)</p> <p>制作活動(壁面飾り作り・マスクケース作り・書初め等)</p> <p>その他(足湯・プチエステ・ゲーム等)</p> <p>◆体調チェック</p> <p>看護師によるバイタルチェック(週1回)</p> <p>健康診断(年1回)</p> <p>歯科検診(年1回)</p> <p>嘱託医師による定期健診(年2回)</p> <p>◆その他</p> <p>避難訓練(年2回)</p>		

④地域交流

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中学生職場体験の受入や、三重大生との交流は中止しましたが、白川小学校の生徒とメッセージの交換やオンライン交流、関地区民生委員児童委員と年賀状を通して交流を行うなど、障がい者への理解を深めてもらえるよう啓発に努めました。

(1) つくしの家 (主たる事業所)

実施日	行事名	場所
12月6日(月)	白川小オンライン交流会	つくしの家

(2) なかまの部屋 (従たる事業所)

実施日	行事名	場所
12月22日(水)	民生委員・児童委員への年賀状作成	なかまの部屋

⑤生産活動

機能訓練の一環として、一人ひとりにあった軽作業を行い、達成感や自信が持てるよう支援しました。

(1) つくしの家（主たる事業所）

委託先	作業内容
(株) アシベ工芸	ろうそく箱詰め
(有) 松川紙工	100円商品の組み立て・梱包
長田隆尚後援会	チラシ折り・封入作業

(2) なかまの部屋（従たる事業所）

委託先	作業内容
(株) アシベ工芸	ろうそく箱詰め
(有) 松川紙工	100円商品の組み立て・梱包

⑥利用体験実習の受入

卒業後の進路を考慮し体験できるよう、利用体験実習の受入を行いました。

学校名	学年	性別	期間
杉の子特別支援学校石薬師分校	高校3年	男	令和3年6月14日～6月18日 令和3年10月18日～11月5日
杉の子特別支援学校石薬師分校	高校2年	男	令和3年6月14日～6月25日 令和3年10月25日～10月29日
杉の子特別支援学校石薬師分校	高校1年	男	令和4年1月24日～1月28日 ※まん延防止等重点措置期間のため中止

⑦運営委員会の開催

本事業所の円滑な運営を資するため、福祉サービス内容や事業計画及び運営について協議をしました。

実施日	内容
2月7日（月）	令和3年度事業報告及び現状について 令和4年度事業計画（素案）について つくしの家の今後の事業運営について

3 日中一時支援事業 <市受託事業>

障がい者等の日中における活動の場を確保し、障がい者等の家族の就労支援及び、障がい者等を日常的に介護している家族の一時的な休息ができるよう実施しました。主に生活介護の開所時間外の利用や、特別支援学校生徒の利用がありました。

(単位：名、円)

	3年度	2年度	増減
契約者数	23 (うち生徒3名)	21 (うち生徒3名)	2
延べ利用人数	148	210	△62
事業収入	263,360	517,750	△254,390

4 特定・障害児相談支援事業

障害福祉サービス等を申請した障がい者(児)の自立した生活を支え、障がい者(児)の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、サービス等利用計画の作成及び支給決定後の計画の見直しを行いました。

①特定相談支援

(単位：名、円)

	3年度	2年度	増減
契約者数	77	73	4
事業収入	2,845,480	2,453,652	391,828

②障害児相談支援

(単位：名、円)

	3年度	2年度	増減
契約者数	14	19	△5
事業収入	639,314	661,105	△21,791

5 社会福祉センターの運営 〈市補助事業〉

◆年間利用状況〈3階集会室〉 (単位：件、名)

	3年度	2年度	増減
利用件数	334	265	69
利用人数	5,873	3,859	2,014

【新型コロナウイルス感染症に伴う休館期間】

- ・令和3年4月17日～令和3年4月25日（つくしの家関係者に陽性者が確認されたため）
- ・令和3年8月27日～令和3年9月30日（三重県に緊急事態宣言が発令されたため）
- ・令和4年2月17日～令和4年2月27日（つくしの家関係者に陽性者が確認されたため）

◆主な工事及び修繕の執行状況】 ※契約金額 10万円以上

工事名	契約年月日	完成年月日
昇降機改修工事	令和3年5月11日	令和3年7月26日
消防用設備改修工事	令和3年5月14日	令和3年6月14日
3階集会室ネットワーク整備工事	令和3年5月19日	令和3年6月2日
1階食堂・2階会議室ネットワーク整備工事	令和4年1月6日	令和4年2月1日
3階集会室雨漏り工事	令和4年2月7日	令和4年3月18日

5 その他

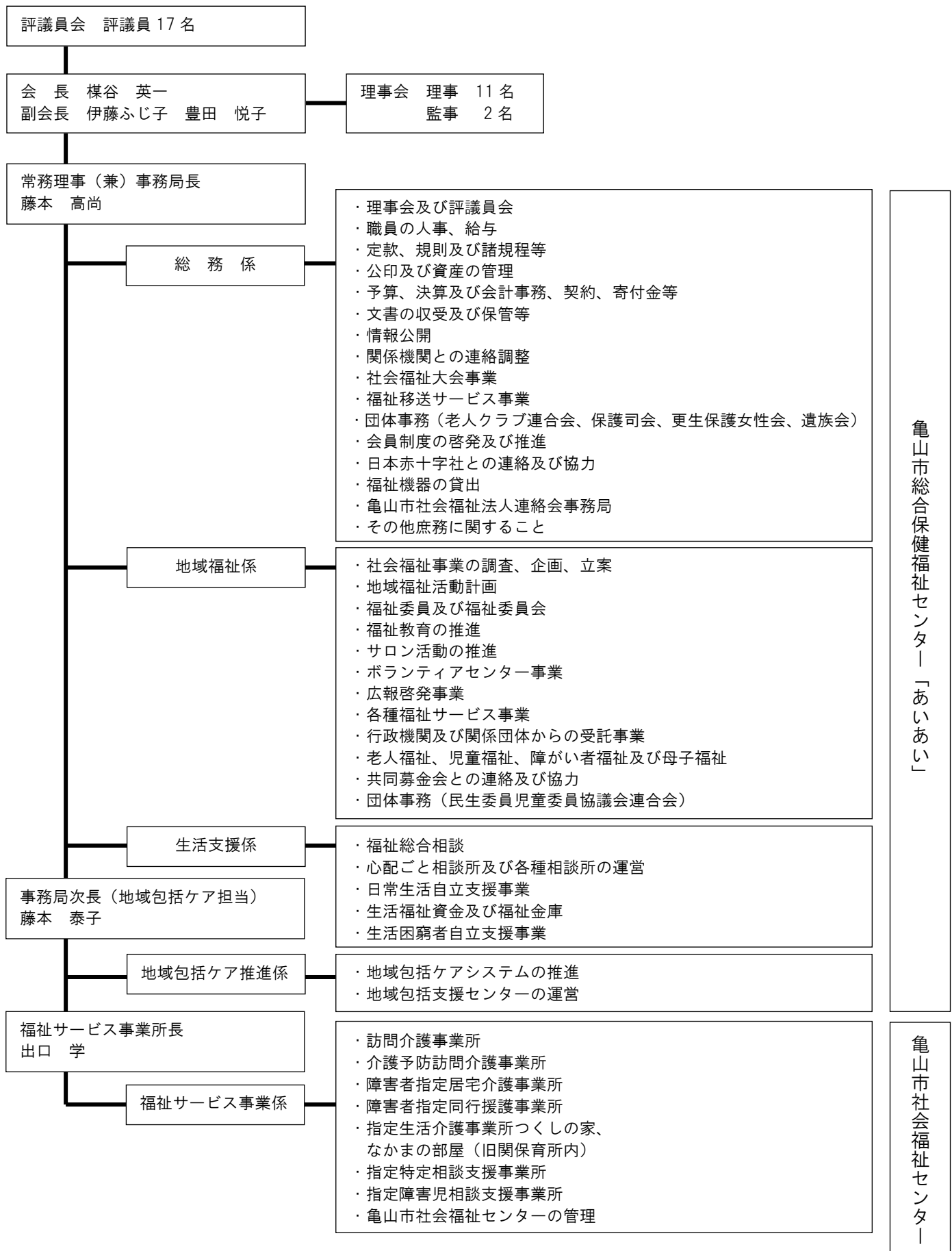
① 関係機関への協力、参加（主なもの）

（単位：回）

委員会名	実施主体	回数/年	出席者
亀山市地域福祉推進委員会	健康福祉部 地域福祉課	4	会長
亀山市高齢者福祉推進協議会	健康福祉部 長寿健康課	1	会長 次長
亀山市高齢者福祉計画策定調整会議	健康福祉部 長寿健康課	1	局長
亀山市地域自立支援協議会	健康福祉部 地域福祉課	4	会長 次長
亀山市要保護児童等・DV対策地域協議会	健康福祉部 子ども未来課	1	会長
亀山市高齢者・障がい者虐待防止対策代表者会議	健康福祉部 長寿健康課	1	局長
亀山市共同募金運営委員会	亀山市共同募金委員会	2	会長 局長
亀山市国民保護協議会	防災安全課	1	会長
亀山市防災会議	防災安全課	1	会長
亀山市水防協議会	防災安全課	1	会長
亀山市スポーツ協会監査及び通常総会	亀山市スポーツ協会	2	局長
市民活動応援制度審査検証委員会	生活文化部 まちづくり協働課	2	主幹
介護認定審査会	鈴鹿亀山地区広域連合	13	所長
介護保険運営委員会	鈴鹿亀山地区広域連合	3	局長
地域密着型サービス事業者選定部会	鈴鹿亀山地区広域連合	1	局長
三重県社会福祉協議会役員会及び理事会	三重県社会福祉協議会	6	会長
三重県社会福祉施設職員研修委員会	三重県社会福祉協議会	3	局長
みえ福祉の「わ」創造事業監査及び運営委員会	三重県社会福祉協議会	2	局長
三重とこわか国体・三重とこわか大会 亀山市実行委員会	三重とこわか国体・三重とこわか大会 亀山市実行委員会	5	会長

社会福祉法人亀山市社会福祉協議会 組織・事務機構図

【令和4年3月31日現在】



亀山市総合保健福祉センター「あいあい」

亀山市社会福祉センター